2018 年 10 月 11 日放送

「第 34 回日本臨床皮膚科医会　　大会を終えて」

谷田皮膚科医院
院長　谷田　泰男

開催までの経緯

平成 30 年 4 月 28 日、29 日に仙台市、国際センターにおいて第 34 回日本臨床皮膚科医会学術大会を開催させていただきました。今回は、研究皮膚科学会、日本皮膚科学会総会と 2 年続けて仙台市で開催された大きな皮膚科関連の学会の翌年に開催された学会で、当初は 3 回目でもあり参加者が少ないのでは無いかと危惧されておりましたので、東京逓信病院の江藤隆史副会長にお声がけ頂いたときには、無理だとお断りしました。しかし前回の牧野好夫先生が仙台で開催されてから長い間、間が空いているのでと、たってのお願いでしたので、宮城県支部総会で受けるかどうかを決めますと返事をしました。

宮城県支部では、前日本臨床皮膚科医会（以下日臨皮）宮城県支部長から、寄付は集めないこと、会頭招宴などは行わず質素な学会にすることと、釘を刺された状態で総会を引き受け無ければなりませんでした。しかしこのように大きな学会は、宮城県だけでは開催が難しいであろうし日本皮膚科学会ではできないような形の学会を開催しようと考えて日臨皮、東北６県の先生方に援助もお願いして準備を行うこととしました。

まず、3 年前の岡山の日臨皮から大井知教先生、小澤宏明先生、落合由理子先生と 4 人で会場周りをし、落合先生には、むすび丸のキャラクターの入った名刺を作成して頂き、展示業者の皆

さんに顔を売りながら仙台の日臨皮総会での展示をお願いし、名刺交換を行って歩きました。

この頃、島田眞路日本皮膚科学会理事長に日本皮膚科学会の学会チームに学会開催の援助をお願いしたいとお話をし、了解して頂きました。また、山﨑研志准教授は、各所でのご自分の講演の最後に 3 年目の 34 回日臨皮をＰＲして下さいました。日臨皮以外にも、東部、東京、中部、西部支部総会、日本皮膚科学会総会にも出向き 34 回日臨皮総会への参加をお願いして回りました。

第 33 回の日臨皮は神戸の全日空ホテルで開催され、第 34 回の日臨皮総会のＰＲブースを準備。熊谷屋の駄菓子と第 34 回日臨皮で使用する為に作成したピンバッチを持って行き仙台を紹介してきました。このピンバッジは、コングレスバックに学会の名前を入れると持ち歩くときに学会参加者と知れてしまいます。そこで、バックに学会名等は印刷せずピンバッジを冷凍のお土産も持ち歩けるような保冷バックの持ち手に付けることとしました。また各大学の教授の皆様には、演題を出して下さるように依頼し展示業者への出展依頼もしました。

この頃からスポンサードシンポジウムをいくつ作るか考え、日本皮膚科学会の学会チームの皆さんのお知恵をお借りしてスポンサーを探して歩きました。

日本皮膚科学会と違った学会を行おうと考え、弘前でスポンサードセミナーを学会最後に行うこととし、弘前の宿を 100 室集めることにしますが、3 年前なのに桜祭りのシーズンでなかなか部屋を集められませんでした。

この後の 2 年間は、大井先生、小澤先生、落合先生と 4 人で色々の学会に参加しては展示してくれる業者を集め、スポンサードシンポジウムやサテライトセミナーの協賛をしてくれる業者を探して歩き回りました。それはとてもつらく疲れる毎日でした。

平成 28 年には、研究皮膚科学会、日本皮膚科学会への寄付を依頼されます。しかし、日臨皮では、前支部長の寄付は集めず、会頭招宴なしで質素な学会をという声が足かせになっておりました。

そこでスポンサードシンポジウムで目玉になる講演を考えることとしました。ビッグネームの先生方を集めてのセミナー。皮膚科の勤務医が一人医長で頑張っている多くの病院の先生方のためになるセミナー。他科の先生に皮膚科医に役立つ講演はないか考えて行きました。これらのシンポジウムのスポンサーになってくれる会社探しが始まります。ビックネームは、マルホ。弘前サテライトはシネロン・キャンデラ。他科と皮膚科の関連を知るは、田辺三菱が決まりますが、最後まで決まらなかったのは、勤務医にエールです。このシンポジウムの座長を依頼することにしていた、江藤隆史副会長にもお願いし、やっとのことで協和発酵キリンが受けてくれ、これで企画したスポンサードセミナーは全部決定となりました。

平成 29 年には、プログラム委員長の柿沼誉先生以下プログラム委員会でセッションの作成を開始し会場の大きさに合わせた数のシンポジウムが出来上がります。それとほ

ぼ同時期には東北各県のシンポジウムが決まって行きました。各県シンポジウムは、スイーツセミナーとしてスポンサーを探してもらいました。スイーツも各県の推薦するお菓子を持ち寄り各支部の先生と内容を決定して行きました。

最後に問題となったのは、座長です。A 先生と B 先生は、あまり仲良くないので別々のセッションになどなどでしたが、柿沼プログラム委員長の機転で何とかうまく出来上がりました。

そうこうしていると、東京の伊藤光政先生から土肥慶蔵先生の皮膚科学が、日臨皮の本部に寄贈されるので、どこかに寄贈式典を入れてくれと言われます。すでに、プログラムの大筋は出来上がっておりました。

柿沼先生の努力で文化講演の前に 15 分間の枠を作り出します。しかし、届いた教科書は昔の物で壊れやすく、誰もが手で触るわけには行きませんでしたので、寄贈された土肥慶蔵先生の教科書の展示方法も問題となります。そこで柿沼先生に中を見ていただき、小冊子を作成し参加者に配布しました。

会頭招宴

会頭招宴の会場探しですが、当初楽天球場の楽天ドームを考えましたが大きさが問題となります。そこで、外野の観覧車のあるスペースを使い、バックヤードツアーをしようとしましたが、雨のときはどうにもならないということで却下となりました。一番安全な場所という事で勝山館を選びました。

勝山館での余興は、東北大学の男声合唱団を小澤宏明先生が押して下さいました。そして、もう一つは津軽三味線です。青森から呼ぼうと考えますが、実は日本一の人達は仙台に沢山いると私の従兄弟から言われます。彼は、その業界に詳しい映画館の社長です。なんと本当に日本一の奏者がずらりと並んで素晴らしい演奏をしてくれました。

懇親会

懇親会のケータリングをどこにするかです。私は、ホテルＡの料理が美味しいのでホテルＡと交渉して欲しいと神林由美先生と谷田佳世先生にお願いしましたが、お二人は大学での診療もあり、その合間を縫って交渉するのは難しいので、皮膚科医局で学会担当として働いていた秘書の出村叔子さんと契約をしました。

神林由美先生、谷田佳世先生、出村叔子さん達との打ち合わせに大井知教先生と私が出て行きます。この時点で、ホテルＡの担当者と初めて顔合わせをします。そして、この後これではどうなるのか不安が山積みしているので、ケータリングのホテル変更を決定しました。

江陽グランドホテルに電話をしてみると、今からでも大丈夫です、対処は十分にできます。お任せくださいお待ちしておりましたと言われます。お酒のサービスのディスペンサーも 50 個ほど準備できるとのこと、各県の名物料理の決定等々着々と進んで行きました。さらに懇親会の部屋も、サブの部屋には椅子とテーブルを置こうと、女性陣から提案が出されます。確かに疲れたら、座れた方がありがたいはずです。江陽ホテルは、すぐに図面を作り対応してくれ、女性陣も賛成してくれました。

お酒も、各県の自慢の物を 4 種類ずつ出すこととなりました。余興は、さんさ踊り、花笠踊り、なまはげが決まります。しかし、ここでも問題が起きます。時間が足りない、ポスターセッションの表彰式もある、企業表彰もしたい。分単位で仕切らなければならないので、司会者を我々でできるのか悩みますが、只木行啓先生の御友人が、仙台放送におられました。良いアナウンサーを紹介してもらえたのです。あとは、小澤宏明先生が時間の打ち合わせをし、スケジュール完成です。鏡びらきもできることとなりました。

学術大会のテーマと学術大会

今回は「皮膚科医の未来を見据え、皮膚科の将来を議論する」をテーマとして日臨皮を開催しました。ここ数年の間に 30 名を超える大学教授が退官されます。京都大学名誉教授宮地良樹先生、東京女子医科大学名誉教授川島眞先生、大阪大学名誉教授片山一朗先生、赤坂虎の門クリニック大原國章先生、藤田保健衛生大学教授松永佳世子先生方

に集まって頂き、御自分の研修時代から研修を重ね教授となって新しい皮膚科学を作ってこられた、これまでの先生方について専門的立場からお話を頂くスポンサードシンポジウム。他科と皮膚科の関連を知るでは、東北大学呼吸器内科小川浩正先生に睡眠呼吸障害との関連について、東北大学大学院医工学研究科・医学系研究科、阿部高明先生にはミトコンドリア病と皮膚の関連についてのスポンサードシンポジウム。勤務医にエールでは皮膚科勤務医が病院内で皮膚科医の立場が良くなるためにどの様に仕事をするかを考えるために仙台赤十字病院、田畑伸子先生と高松赤十字病院、池田政身先生にお願いしてスポンサードシンポジウムを行いました。

さらに「新しい皮膚科学第３版を出版して」、「大震災に備える一被災地からの提言」、「蕁麻疹と類縁疾患を学ぼう」、「学び直そう脱毛症」、「膠原病―この皮疹を見逃すな」、「感染症 up date」、「がん治療をリードする皮膚腫瘍学：全てのがんの克服を目指して」、「アトピー性皮膚炎治療のこれから」、「接触皮膚炎のマイスターが語る忘れられない症例」、「他では聴けない乾癬の話」、「美しい方はより美しく・そうでない方も美しく～美容皮膚科」、「食物アレルギー最前線」、「知っ得！これからの皮膚科」、「褥瘡治療を振り返る」、「熱傷」、「掌蹠膿疱症―あの話・この話」、「今年の春は爪美人」のシンポジウムを行いました。

文化講演

往復 48 キロ、標高差 1,300 メートル超の獣道を、一日も休まず登り下りする奈良県吉野の大峯山で千日回峰行の史上 2 人目の満行者、さらに飲まず・食べず・寝ず・横にならずを 9 日間続ける四無行を満行し 2003 年に仙台市秋保に慈眼寺を開山した塩沼亮潤大阿闍梨に、ビデオを駆使しながら、毎日が小さな修行という深いお話をしていただき、感動させられました。

展示棟での展示と協賛

協賛企業 129 社、企業展示は 67 社が集まりました。展示棟の天井は高いので上に伸びる形の展示をお願いしました。展示スペースも箱型にしてくれる会社を優先しました。展示棟内にはポスタースペースと休憩場所。展示各社の間隔を広くとるようにしました。休憩スペースには、女性陣の考えたスイーツを並べ、各県のおすすめのソフトドリンク、地ビールを用意し自由に飲めるようにしました。もちろん、展示業者も自社の展示ブース内でもアルコールを含めたサービスをしても良いこととしました。沢山協賛して頂いたシネロン・キャンデラとマルホには金賞の賞状と盾、田辺三菱には銀賞、日本臓器には銅賞の賞状を授与しました。

弘前サテライトセミナー

弘前大学の澤村大輔先生に座長をお願いし、これからの皮膚レーザー治療のあり方・色素レーザーからＱスイッチレーザー・ピコ秒レーザーまでと題して赤坂虎の門クリニック大原國章先生と東海大学形成外科河野太郎先生に講演をお願いしました。大原先生は「津軽・南部さしこ」を羽織られながら講演をしてくださいました。

セミナーでは会の始まる前に食事と飲み物を準備し、演者、座長、聴衆と家族もお酒を飲みながら食事をして頂き、会場内にも持ち込み可としました。

この弘前サテライトセミナーも、100 名が仙台から新幹線と貸し切りバスで移動しました。石垣修理のため曳家で移動した弘前城と 100 周年の弘前さくらまつりを楽しみながら第 34 回日臨皮総会・学術大会は盛会のうちに終了できました。

天候にも恵まれた弘前の桜は、例年よりも早く咲き始めたためサテライトの時には散ってしまうかと心配しましたが、3 月に降った雪が私たちに素晴らしいさくらまつりを見せてくれました。お堀の花いかだ、葉桜、城の中には七分咲き、満開の桜全てが見られ参加された皆様に楽しんでいただけました。

学会前に集合した準備委員